

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部 2年 大谷友美絵

私が2019年度浙江大学スプリングスクールに参加させていただき、帰国した今、「参加してよかったな」という気持ちでいっぱいです。初めての留学ということで、楽しみな気持ちもあった一方で、たった15日で、ちゃんと満足できるのかな?という半信半疑な気持ちも抱き参加したのですが、今ではあの時参加することを決意した自分を褒めてあげたい気持ちです。

私なぜ、このプログラムに参加することに決めたのかというと、理由は主に3つあります。まず1つ目は2年間第二外国語として学んできた中国語の集大成にしたかったから。2つ目は私自身が各国の文化に興味があり、日本の文化と中国の文化を比較し、また日本の文化を中国の学生に伝えたかったから。そして3つ目はなんと言っても費用が学生に優しい設定だったからです。3つ目の理由は、私が留学を決意する1番大きな決め手になりました。留学するにあたって、費用を親に頼るのは申し訳ないと思っていたので、自分で費用を工面できるこのプログラムに参加するしかないと思いました。

プログラム自体は、平日は午前中に語学の授業、午後にプログラム参加者全員で決められた場所に観光に行ったり、または自由行動をしたりしました。休日は終日自由行動で、私たちは上海、蘇州、浙江の市街地に行きました。語学の授業では、留学生が受講している中国語のクラスに入れてもらいました。クラスメートは私たちよりもはるかに中国語学習歴が短い人ばかりで、それなのに既に中国語を話せたり聴いたり、実用的に活用できている人がとても多くて、びっくりしたと同時に、恥ずかしくなりました。また、中国語を学習しようとする姿勢がすごく積極的で、刺激されました。その一方で、私たちに対しフレンドリーで、共通の趣味や同じ留学生という立場で中国に来て感じたことなど、たくさんお話が出来、何度もランチしたり、ディナーに行ったりしました。そこでの会話は中国語というより英語中心で、英語の力も身につけた気がします。今まで外国人と話すのは少し抵抗があったり、身構えたりしてしまっていたけど、これを機に、恐れず何か話してみる気持ちが大切で気軽に接してよいと学ぶことが出来ました。外国人と会話することに対する苦手意識も少し改善された気がします。また、日本の文化に興味を持つ外国人留学生が多く、マンガやアニメ、着物やアイドルなど、当初の私の目的である文化交流がたくさん出来ました。私たちが帰国する前には、お別れパーティーを開いてくれて、クラスのほとんど全員が参加してくれました。先生もとても帰国を悲しんでくれて、最後の授業の後にはクラス全員で写真も撮りました。クラスメートとはWeChatで連絡先を交換していて、いつでも連絡してきて!と言ってってくれています。いつか、スムーズに英語や中国語で会話できるように、クラスメートに教えて貰った勉強方法を活用して、語学学習を頑張ろうという気持ちになりました。

つまり、この留学は、私にとって集大成だったはずが、語学学習の新たなスタートとなったのです。

また、このプログラムのいい所は、外国人の友達だけでなく、日本人の友達も出来るということです。京都大学の歳に近い学生同士ということで、共通の話題も豊富で、一緒に行動したり、生活したり、観光したりする中で、以前知り合いだった人とはより親密に、初めて知り合った人とも仲良くなれ、今ではとても大切な仲間になりました。帰国したらその仲間達に会いたい、寂しい、という感情を抱くまでになりました。

自分にとって大切な仲間たちと語学学習への刺激とモチベーションを与えてくれた、このプログラム。このプログラムで得た気持ちをいつまでも忘れず、これからも語学学習に励もうと思います。